

Title	コメント：若手として期待するもの：科学教育の研究者をどのように養成するか(Session 8:総合討論「教育のルネッサンスは可能か?」,京都大学基礎物理学研究所研究会「科学としての科学教育」,研究会報告)
Author(s)	安田, 淳一郎
Citation	物性研究 (2010), 93(4): 528-528
Issue Date	2010-01-05
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/169171">http://hdl.handle.net/2433/169171</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

## コメント：若手として期待するもの —科学教育の研究者をどのように養成するか—

安田 淳一郎

(名古屋大学 高等教育研究センター)

私のような若輩者が経験豊富な皆様に申し上げられることは大変少ないのですが、若手からの率直な意見として受け止めて頂きますと幸甚です。

私からコメントを差し上げるにあたりまして、私は本研究会の若手参加者ほぼ全てから「若手として期待するもの」を一人一人聞き取りいたしました。ここでは、私たちの意見を一つにまとめたものを皆様にお伝えしたいと思います。それは、「科学教育の研究者をどのように養成するか」ということについて皆様に議論をして頂きたい、ということです。以下では、この提案に至った背景から順にご説明をさせていただきます。

これは私的な見解ですが、本研究会の参加者には科学教育の実践者が多く、それぞれの教員方が自身の教育経験を述べ合うに止まっているのではないかと私は感じています。本研究会で交わされました、先生方の教育実践に基づいた経験的知識は、経験豊富な教員方にとってはご自身の文脈に合わせて捉えることができると思いますが、自らの文脈をほとんど持たない若手参加者にとっては系統的に受け取ることが困難であるように思えます。それゆえ、このままでは本研究会でせっかく共有された知見が体系化され、継承されていかないのではないかと私は危惧しています。

この問題を解決するために、私が重要と考えることを2点挙げさせていただきます。1つ目は、科学として科学教育に関する知見を体系化することの重要性を科学教育に携わる方々が認識することです。ここでいう科学とは狭義の自然科学的な意味ではなく、伊勢田先生のご講演にもありました広義の意味における科学のことです。科学として科学教育に関する知見を体系化することの重要性についての認識が芽生えつつあることは、本研究会の主題からも読み取ることができますが、この認識がこれから広がりを見せることが期待されます。

2つ目は、科学教育に関する知見を科学として体系化することを担う専門家である、科学教育の「研究者」を養成するための仕組みを構築することです。私たち若手参加者はかつて理学に関する研究に従事していた者がほとんどで、教育学について系統的に学んだ者はほとんどおりません。また、若手参加者の中には非常勤講師などの教育経験を持つ者もおりますが、まだ経験が浅いために科学教育に関する知見を体系化する能力に乏しいのが現状です。科学教育の研究者を養成するための学部や研究科の設置、研究者集団が議論する場である学会の設立を視野に入れながら、まずは科学教育の研究者養成のあるべき方向性の議論から始めて頂くことを、若手として期待しております。